令和４年度第１回北海道アザラシ管理検討会（打合せ）開催結果概要

１　日　時　令和５年(２０２３年)２月７日（火）１１：００～

２　場　所　別海町生涯学習センターみなくる２F　会議室１・２

３　出席者　＜検討会構成員＞

北海道アザラシ管理検討会座長　小林　万里（東京農業大学生物研究学部海洋水産学科教授）

北海道アザラシ管理検討会構成員　宮内　泰介（北海道大学大学院文化研究院教授）

北海道アザラシ管理検討会構成員　山村　織生（北海道大学研究院水産科学研究院准教授）

北海道アザラシ管理検討会構成員　後藤　陽子（北海道立総合研究機構稚内水産試験場研究主幹）

＜事務局＞

北海道環境生活部自然環境局野生動物対策課課長補佐（野生鳥獣）　車田　利夫

北海道環境生活部自然環境局野生動物対策課野生鳥獣係主査（特定動物）　松田　宏子

北海道根室振興局保健環境部くらし・子育て担当部長　中村　和実

北海道根室振興局保健環境部環境生活課長　小林　弘典

北海道根室振興局保健環境部環境生活課自然環境係長　河崎　淳

北海道根室振興局保健環境部環境生活課自然環境係主事　田中　隼太

４　議　題

(1) 令和４年度　周年定着個体数の状況について（11：05～11：30）

(2) 北海道アザラシ管理計画　令和５年度事業実施計画について（11:30～11:35）

(3) 令和５年度　北海道アザラシワークショップについて（11:35～11:50）

５　議事概要

(1) 令和４年度　周年定着個体数の状況について

＜発言要旨＞

・本年の周年定着個体数は 470 頭（前年 720 頭）、冬期確認個体数も多くて 1,000 頭程度であり、夏、冬ともに個体数は減少傾向にある。（小林座長）

・定点カメラは過去に多く確認できた場所に設定しているが、特にそのような地域で減少している一方、別の場所での上陸がかなり増加しており、定点カメラの増設が重要。（小林座長）

・最近、海獣全般の来遊経路が変わっている傾向がみられる。上陸場が変わっている可能性があれば、どこに変わったのか調査する必要がある。（後藤構成員）

・新しい上陸場を一斉調査などにより把握しないと、被害を見逃すおそれがある。一斉調査は、過去に全道を対象に３～４年間程度実施した経緯があるが、ボランティアによるもので、調査員間の日程や時間の調整が難しく、調査時間と上陸時間の不一致、異なる時間帯の観察数を合算することの問題などから継続しなかった。（小林座長）

＜発言要旨＞つづき
・一斉調査に先立ち、まず１週間程度かけて各地を見て回り、上陸場の分布を調べることが重要。過去も同様の調査を行った上でセンサス等を実施した。来遊経路が変わってきているので、冬と夏に時間をかけて上陸場把握をする。地元漁業者等の聞き取り調査も同時に行うことが重要。（小林座長）
・周年定着個体により『「いつ」「どこで」「どういう」被害が起きているのか』を示さないと、周年定着個体を減らす必要性の道民理解が進まない。月別の漁業被害額情報があれば整理した上で、次期計画に反映してほしい。（山村構成員）
・周年定着個体数の削減目標を達成した場合、計画をどうするか。（小林座長）
・（最初の）管理計画策定には不透明な部分が多く、過去には夏には生息しておらず、近年、冬に多くが来遊し、そのまま夏も定着するようになった経緯があり、本来はその夏期定着個体を排除しようという考え方であったもの。結果的に、その時期は積極的な捕獲ができず、冬期の捕獲に頼ってきたところに、近年、個体数が減ってきたということ。計画にはもう少し明確に記載する必要があるかもしれない。（小林座長）

(2) 北海道アザラシ管理計画　令和５年度事業実施計画について（11:30～11:35）

＜発言要旨＞
・夏期に被害があまり生じていないことが判明した場合、周年定着個体を排除する必要性についてしっかり説明できるようにしておくべき.（山村委員）
・実際に圧力をかけている対象は冬の個体群だが、夏の個体数が減っているため、冬の個体の居残りであるという推測ができるようになったことから、それを管理計画に反映する必要がある。（小林座長）
・冬期に有害駆除や追い払いをどの程度実施し、その後どうなったかについては、実態を把握できておらず、今後、連携していく必要がある。（小林座長）
・事業実施計画の１の（２）個体数の削減目標について、「夏の周年定着個体を減らすことで、冬の個体群に影響を与えない」とあるが、「冬を減らしたら夏が減った」それに沿う形で整理をしたほうがよい。（後藤構成員）
・R4 事業実施計画３ページ５（２）「毛皮・肉・脂肪などの有用性の情報収集」の「プラスの影響についても」について、人間から見た価値で評価しようという考えは生物多様性の考え方からは好ましくない。野生生物自体が生物多様性なのだという認識も必要。（山村構成員）
・管理計画は順応的に見直すものであり、大幅な変更が必要となる可能性もある。今後の２年間で現状をしっかり把握することが重要であり、今から考えておくことが必要。（小林座長）

(3) 令和５年度　北海道アザラシワークショップについて（11:35～11:50）

＜発言要旨＞
・来年度の調査で上陸場の変化等の新たな知見が得られた場合は、それを周知するため、過去開催地であっても関連する地域での開催を検討し、それ以外の場合は調査事業の内容を理解していただくために未開催地とした方が良い。（小林座長）